



—第10号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5427
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

“連携の拠点をもつ意義”を意見交換

—平成23年度地域連携活動発表会

平成23年度地域連携活動発表会が、2012年1月20日、例年と同じ瀧川記念学術交流会館大会議室で開催されました。毎年開かれている発表会ですが、今年度は「地域との連携の深まり—拠点をもつ意義」をテーマに、事例報告や講演、意見交換会が行われました。

中村千春地域連携担当理事の挨拶の後、奥村弘地域連携推進室長から「神戸大学の地域連携事業の成果と課題2003—2011」と題する基調報告がありました。

第一部では、学内各部局の地域連携活動を支援する「地域連携事業」のうち、都市安全研究センター 河井克之准教授、人間発達環境学研究所 松岡広路教授からそれぞれ活動報告がありました。また、地域活性化を図る学生の活動支援のための公募事業「学生地域アクションプラン」の活動について、ユース六篠 寺下和輝さんが発表しました。

第二部では地域連携における拠点をテーマに、兵庫県立大学環境人間学部 内平隆之専任講師に講演をいただきました。続いて、本学篠山フィールドステーションの事例をもとに、意見交換会が行われました。



講演者の内平氏に加え、本学から人文学研究科 坂江渉特命准教授、保健学研究科博士後期課程 石岡由紀氏、篠山フィールドステーション 布施未恵子地域連携研究員、そして篠山市政策部企画課篠山に住もう帰ろう室 山田辰男主査がパネリストとして参加しました。会場内から、自治体、他大学からの参加者や学内の関係者も加わり、地域連携の拠点をもつ、教育上研究上の意義や課題について、有意義な意見交換を行いました。

この発表会の様子は、本年度の「地域連携活動報告書」に収録する予定です。



〈時空をわたる楽の音〉の調べ—青野原俘虜収容所再現コンサートを開催

青野原俘虜収容所再現コンサート〈時空をわたる楽の音〉が、10月14日、神戸大学出光佐三記念六甲台講堂で、16日、小野市うるおい交流館エクラホールでそれぞれ開催されました。神戸大学、小野市が共同で主催する「青野原収容所俘虜がみた日本～新発見の俘虜撮影写真～」展の関連企画です。

第1次世界大戦期、現在の兵庫県小野市～加西市にまたがる青野原に俘虜収容所が設置されました。神戸大学と小野市の共同調査によって、俘虜たちは比較的自由に地域住民と交流していたことが明らかになっています。今回は、近隣の住民を招いて当時収容所で開いていた演奏会を再現しました。

コンサートは、田村文生人間発達環境学研究所准教授の指揮の下、神戸大学交響楽団の有志約40人の演奏によって行われました。16日には、習志野俘虜収容所（千葉県）での演奏会の再現を試みている「町の音楽好きネットワーク」（6名）も加わりました。

14日には、天候の悪い中、80人近くの近隣の方々が、16日には250人以上の小野市民たちが、100年近く前に奏でられた音楽を楽しみました。

なお、当日は東日本大震災義援金募金活動にご協力いただき、2日間で義援金合計5万3,431円が集まり、日本政府を通じて送金いたしました。



学生地域アクションプランより 「自給自足への道～自分で作った米で被災地支援」

「学生地域アクションプラン」は、学生の地域貢献活動を支援する目的で、2008年から始まりました。今年度は、東日本大震災への支援も考慮に入れながら採択しました。「自給自足への道～自分で作った米で被災地支援」について、農学部2年の長井拓馬さんにお話を聞いてみました。

一「ユース六篠（りくそう）」とはどういうグループですか。

昨年度、農業農村フィールド演習で、篠山市福住地区でお世話になりました。演習終了後、篠山フィールドステーション駐在研究員の布施さんから、獣害対策を学生の力で手伝ってもらえないかと声をかけられました。結局、その話は東日本大震災発生の影響で無くなりましたが、今度は震災支援でグループを作って何かできないかということになりました。

メールなどを送って誘ったメンバーは13人ほど、そのうち10～11人ぐらいが活動に参加しました。大部分がフィールド演習を一緒に受講したメンバーです。受講した年の「福住夏祭り」に誘われて、参加したメンバーが今回のグループになりました。中に一人理学部の学生がいますが、他は農学部の学生です。神戸大のある六甲の地名と大学発祥の地である篠山の頭文字を取って「六篠会（りくそうかい）」といいます。「ユース六篠」は、そこから名前をつけました。

一活動目的、計画を教えてください。

活動目的には、「農業農村フィールド演習の演習地域である篠山市福住地区に継続的に通うことにより、①過疎化による耕作放棄地の増加、②高齢化による担い手不足といった地域課題の解決を試みる」ことを掲げました。そして、学生が定期的に通い、問題点①の耕作放棄地を利用・維持管理し、その土地で収穫されたものを大地震による被害を受けた東北への支援へと使用する計画をたてました。ところが、活動開始時期が遅かったため、計画の変更を余儀なくされました。

一計画変更というのはどういうことでしょうか。

当初「耕作放棄地」の活用を考えていました。ところが、放棄地は、使えませんでした。たぶん無理をいったら、使わせてもらえたかもしれません。しかし、毎週学生5人は来てほしいといわれた場合に対応できるかということや、稲の苗の準備など、もっと前から解決しなければいけない問題がありました。それよりも、地元で普段からしていることに学生が参加する形の方が、農家さんの負担とメリットの両者を考えると都合が良かったのです。人手が必要なときに手伝う方が、助けになるのではないかと

ということになりました。無理に耕作放棄地を利用しようとするれば、僕たちがやりたいことをやるだけになるのではないかと思います。



授業とは異なり、自分たちで活動しようすると、収穫したものを置く場所や、種まきの経費、それに、素人が作ったものが売れるのかということなど、やってみたい気持ちはあっても、様々なハードルがあることがわかりました。これは、自分たちでやろうと考えてみたからこそわかったことです。

一どのような活動をされたのですか。

高齢者の方のお手伝いをしました。販売しないけれど、自宅用に作っておられる方もいらっしゃる。荷物を取ってもらっただけでも助かると言われました。僕たちからすると、自宅用に作っておられる方のお手伝いをするのは、乾燥も天日干しでおこなうなど、機械化されない作業があるのでおもしろかったです。

被災地には、手伝いに行っていた農家さんに支援を呼びかけ、集まったお米100キロを市の社会福祉協議会の第8次ボランティアバスで宮城県南三陸町へ届けました。12月には正月用の黒大豆を南三陸町漁業協同組合へ約10kg送らせてもらいました。

一1年やってみてどうですか。

少し駅から遠いので、お手伝いに行くのに、地域の方に送迎をお願いしていました。それが申し訳なかったのですが、今回、地域の自動車学校のバスを利用できるようになりました。また、人数にムラがあり、仕事の調整が大変でした。それから、農家さんには、「来てくれるのであれば、仕事をさせてあげよう」という感じで接してもらいました。やりたいことをやらせてもらっているようで、本当に役に立っているのか、少し心苦しく思うこともありましたが、今までお世話になったのは知り合いの方たちばかりで、あちらが心配りをしてくださったので、来年度は、まちづくり協議会の集会所の開放日に滞在して、そこを拠点にしてまちを歩いて、知り合いでない人にも声をかけていきたいと思っています。役割分担をしながら、次年度にもつながるようなサークルにしていきたいと思っています。1年間で終わるのはもったいないので、活動自体が後輩たちにも残るような形にしたいと思っています。

保健学研究科地域連携センターから

第7回保健学研究科地域連携センター報告会が、2012年1月21日、兵庫県民会館で開催されました。毎年この時期に、1年間の活動を報告するために開かれています。奥村弘地域連携推進室長、高田哲保健学研究科地域連携センター代表の挨拶に続き、4つの第一部報告と2つの第二部報告が行われました。

第一部では、神戸市教育委員会と連携して開催されている発達障害を持つ就学前の子どもと保護者への支援教室「ぼっとらっく」の活動が報告されました。続いて、神戸市や他大学とも連携して実施されている発達障害をもつ小中学生とその家族を対象とする「あじさいキャンプ教室」が紹介されました。この取り組みは「ぼっとらっく」の子どもたちより年長の子どもたちの支援を行うものです。発達障害をもつ子どもたちへの、地域に根ざした包括的な支援の姿勢がうかがえました。

第二部では、昨年「学生地域アクションプラン」で支援した、「父親の育児支援のための教育プログラム開発と実践」の2年目の取り組みが取り上げられました。昨年より1歩深めた北須磨団地での父親への育児支援が紹介されました。続いて、高田哲地域連携センター代表から、地域で支援してきたことを国際的に広げていくインドネシアでの「小さな子どもに対する災害後の支援」が報告されました。報告後には、地元自治体や学内外の教員などの参加者も加わり、活発な意見交換が行われました。



神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業

今年度は、次の教職員関係団体1件、学生関係団体3件の事業に助成が行われました。

◇教職員関係

◇「摩耶道のおおる村の歴史」関係資料調査および講演会開催事業（人文学研究科地域連携センター）

- ・灘区域にある摩耶山に関する地域歴史資料を調査し、地元の村々との関係を歴史的に明らかにしました。
- ・講演とフィールドワーク（第1回）摩耶道のおおる村の歴史（2012年3月12日 於：摩耶山）

◆学生関係

◇東日本大震災長期支援イベント えーる（ボランティア団体 かたつむりんぐ）

- ・毎月第3土曜日 11時～、神戸市立灘区民ホール
- ・子どもを対象にしたゲーム・工作コーナーを設け、親子で楽しめるステージを1日2回行いました。このイベントの収益金は全額、募金にあてられました。

◇音楽物語「ぞうのババル～みんなであうたう こどもの歌コンサート」（神戸大アートマネジメント研究会）

- ・7月12日（篠原児童館）、13日（八幡児童館）、15日（原田児童館）
- ・就学前幼児とその保護者を対象に、クラシック音楽の「親子コンサート」を開催、本格的なプロの歌と演奏を楽しみました。

◇まちプロジェクトー まちTゆうえんち'11（まちプロジェクト実行委員会）

- ・工学部建築系の学生を中心に、地域や学生から集めたTシャツを中心とした不用品を使って、構築物を造ったり、ゲームや出店などをして地域のイベントに参加しました。



東日本大震災支援

被災地図書館との震災資料収集・公開に係る意見交換会開かれる

東日本大震災支援の一環として、2012年2月21日に、岩手大学附属図書館、東北大学附属図書館、岩手県立図書館、宮城県立図書館の職員の方々とともに、震災資料の収集・公開について、神戸大学附属図書館で意見交換会を行いました。

今回の震災では、広範囲にわたる被災地で、震災の記憶や記録を伝えようと震災資料の収集活動が始まっています。阪神・淡路大震災資料を収集するにあたって築いてきたノウハウを東北各地の被災地図書館と共有し、震災資料を通じて東北地域の図書館と連携を深めるために開催されたものです。震災文庫の見学のあと、短い時間にも関わらず、活発な意見交換が行われました。翌日は、人と防災未来センター資料室、兵庫県立図書館、神戸市立中央図書館の見学が行われました。



活動報告（2011年8月～2012年2月）

8月	31日	地域・だいがく連携通信 第9号を発行
9月	05日	オープンセミナー「江戸時代の丹波茶－日置地区中西家文書の世界－」開催（篠山フィールドステーション）
	26日	地域連携推進室（4階）、連携推進課（5階）、連携創造本部棟（旧VBL棟）に移転
10月	01日	小野市立好古館平成23年度企画展「青野原収容所俘虜がみた日本～新発見の俘虜撮影写真から～」開催（～30日、小野市 好古館） まちプロジェクトーまちTゆうえんち開催（～02日、六甲道南公園）
	14日	青野原俘虜収容所再現コンサート開催（神戸大学出光佐三記念六甲台講堂）
	16日	青野原俘虜収容所再現コンサート開催（小野市うるおい交流館エクラホール）
	29日	神戸大学都市安全研究センター発「みんなで考えよう 安全・安心で快適なまちづくり」オープンセンター開催（神戸ハーバーランドスペースシアター）
11月	07日	神戸市灘区来訪
	12日	平成23年度特別展「下東条歴史街道をゆく」開催（～12月25日、小野市 好古館）
	29日	兵庫県立大学 来訪
12月	03日	和歌山大学岸和田サテライト5周年記念フォーラムに参加
	08日	第2回地域連携推進室会議開催 地域とサイエンスショップ研究会開催
	11日	平成23年度特別研究プロジェクト・国公立大学フォーラム「地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学」開催（瀧川記念学術交流会館）
	15日	三木市企画部来訪
	20日	人間発達環境学研究科と調整
1月	20日	平成23年度地域連携活動発表会開催（瀧川記念学術交流会館）
	21日	第6回地域連携フォーラム開催（農学研究科地域連携センター） 第7回地域連携センター報告会開催（保健学研究科地域連携センター）
	23日	人間発達環境学研究科と調整
	24日	農学研究科地域連携センターと調整
	29日	第9回 歴史文化をめぐる地域連携協議会開催（人文学研究科地域連携センター）
2月	02日	工学研究科近藤民代准教授と調整
	21日	被災地図書館との情報交換会開催

【お知らせ】

2012年1月から、篠山フィールドステーションに、新しいスタッフが着任されました。藤原ひとみさんです。布施未恵子さんともどもよろしくお願ひします。